

第21回 夏休み自然観察記録コンクール

- ◇募 集 8月1日(金)～9月19日(金)
 ◇応募作品数 道内の小学校27校から88点(1年23点、2年19点、3年13点、4年8点、5年8点、6年12点)
 ◇入 選 入賞9点、佳作20点、学校賞3校
 ◇審査委員 横山 武彦(審査委員長、北海道自然保護協会常務理事)
 在田 一則(同会長) 佐々木克之(同副会長)
 福地 郁子(同常務理事) 山崎 薫(同理事)
 堀 繁久(北海道開拓記念館主任学芸員)
 矢萩 学(北海道新聞野生生物基金事務局長)
 ◇主 催 一般社団法人北海道自然保護協会
 公益財団法人北海道新聞野生生物基金
 北海道新聞社
 ◇後 援 北海道教育委員会、札幌市教育委員会

1995年に当協会の創立30周年を記念して始められた夏休み自然観察コンクールは今年第21回を迎えました。

応募作品の審査会は9月25日(木)、北海道自然保護協会内で開かれ、審査の結果、下記のように、金賞1点、銀賞2点、銅賞6点、佳作20点、学校賞3校が選ばれ、コンクールの結果は、北海道新聞10月4日付朝刊に入賞・佳作作品、10月25日付夕刊の「道新小学生新聞週刊フムフム」には金賞・銀賞の作者・作品の紹介、審査講評が掲載されました。

▽金賞

土屋 凜(札幌市立平岡小学校4年)
 「トンボの観察パート3」

▽銀賞

福井春太郎(札幌市立宮の森小学校1年)
 「ありのかんさつ」
 岸本隆之介(札幌市立真駒内桜山小学校6年)
 「カタバミとコニシキソウの野望」

▽銅賞

西島一樹(利尻町立沓形小学校1年)
 「りしりのかいがたんけんちず」
 板東花恋(北海道教育大学附属旭川小学校1年)
 「あさがおのいっしょう」
 吉田柊輝(札幌市立真駒内桜山小学校2年)
 「ぼくが見つけた草や花ずかん」

谷岡幸和(札幌市立大倉山小学校2年)

「カエルを見つけたよ!!」

菅原健太郎(札幌市立真駒内桜山小学校3年)

「ぼくの 西岡公園トンボ図鑑」

中村一雄(函館市立北日吉小学校6年)

「函館で見られるヒルガオ植物について～そして、北日吉小学校のヒルガオ植物～」

▽佳作

浅田大雅(中富良野町立本幸小学校1年)

「アオカナブンのふしぎ」

本村晴慧(札幌市立真駒内公園小学校1年)

「しまへびについて」

三国悠晟(旭川市立永山小学校2年)

「トノサマバッタのとくちょう」

朝比奈京太郎(札幌市立大倉山小学校2年)

「みのまわりにすむ生き物パート2」

岩月咲樹(札幌市立大倉山小学校2年)

「はっぱのじっけん」

廣瀬雷太(札幌市立大倉山小学校2年)

「いきものずかん」

佐々木隼武(札幌市立藻岩小学校2年)

「カブトムシとカナチョロのけんきゅう」

長田滉士(札幌市立真駒内桜山小学校3年)

「月のかんさつ」

油谷舞桜(札幌市立大倉山小学校3年)

「花のひみつ」

津田悠介（札幌市立藻岩小学校 3 年）
「クワガタの観察日記」
島田煌希（札幌市立川北小学校 3 年）
「ぼくのきゅうり」
稲野 響（札幌市立真駒内桜山小学校 4 年）
「23 種のアリ観察図かん」
大野佑真（札幌市立真駒内桜山小学校 4 年）
「アリジゴクの観察」
森川結菜（札幌市立大倉山小学校 4 年）
「ヘビ調べ」
笹川 桃（札幌市立豊園小学校 4 年）
「カナヘビのひみつ？」
坂東泰知（札幌市立真駒内桜山小学校 4 年）
「川の流れを調べよう 豊平川編」

関根晴紀（札幌市立西岡小学校 5 年）
「オニグモの観察」
上川弘夢（旭川市立新町小学校 6 年）
「エゾサンショウウオの観察」
櫛引秀斗（札幌市立大倉山小学校 6 年）
「ライトトラップについて」
多田 遙（札幌市立大倉山小学校 6 年）
「コアシナガバチ・巣と比較」

▽学校賞

札幌市立大倉山小学校
札幌市立真駒内桜山小学校
札幌市立藻岩小学校

■■■ 不思議から知るよろこびへー楽しかった自然観察の記録

審査委員長 横山武彦 ■■■

応募作品はいずれも、身近な自然や生物、現象に興味を持って採集・観察や調査を地道に行い記録してまとめた作品が多くありました。また、記録やまとめの過程で不思議に思ったことを明らかにするための調査や観察の方法を自分なりに考えて行い、結果について考察するという作品が多くみられたことはうれしいことでした。なお、観察する生物や虫ではハチやクモのように扱い方では危険を伴うものについての作品がありました。今後、そのような生物については扱い方に十分注意しましょう。

金賞・銀賞・銅賞の作品についての講評は下記のとおりです。

[金賞] **土屋 凜さん**は、トンボの観察を始めて3年目、今年は平岡公園での観察結果を中心にトンボの初見日(その年に初めて見た日にち)、種類と生息環境の関係、トンボの見分けかたについてまとめました。初見日調べでは釧路と札幌でシオカラトンボについて観察した結果を過去の気象測候所の観察記録と比較して、その違いを気候や外来生物のウチダザリガニのいる・いないなど環境の違いと合わせて考察しました。外来生物を外に逃がさないなどのことがトンボの生育環境にとって大事とまとめていました。また、北海道では函館以外での観察記録がなかったショウジョウトンボを平岡公園で確認できたことはすごい発見でした。まとめでは、その生育環境の変化がトンボに大きな影響を与えていることに気付いて、もっと

トンボの住みやすい環境になってほしいと訴えています。

[銀賞] **福井春太郎君**はゼリーを使った飼育キットでのアリの観察日記でした。巣穴の作り方、穴を掘ってできた余分のゼリーの処理、卵の飼育方法、作業するアリの分担やグループのできかたなど、毎日テーマを決めてじっくり観察し記録しました。作業の早さや仕事の量をはかる工夫もみられました。日毎に変わる巣穴やアリの作業の様子や、まゆを全部のあしで抱えてなめまわして菌から守る行動など、本に書いてあることを確かめながら注意深く観察しました。必死に活動しているアリへのいとしさが伝わってくる作品でした。観察の中で生まれた新しい疑問は、さらに観察して明らかにできたらいいですね。

岸本隆之介君は、庭や家のまわりに生える雑草の中で、特に取り除くのに大変なカタバミと外来種のコニシキソウについて、他の草にはない繁殖の作戦はどのようなものか調べ観察した記録でした。両種に共通していることは、横に這う茎があり、茎の途中から何か所も根が出ていることが引き抜くのに苦労する理由であることで、掘り起こして確かめました。カタバミは実が熟し乾燥すると弾けて種が1m以上も飛ぶことを実験で確かめ、飛ぶ仕組みも調べてスケッチしました。また、コニシキソウはアリが蜜を吸いにきた時に花粉を身体に付けて運び受粉を助けたり、種を運ぶ手助けもしていることを花の構造とアリの行動

の観察とから確かめました。アリの中で小さなアリとだけが共存関係していると気付いたのもしっかり観察の結果でした。

[銅賞] 西島一樹君は「りしりのかいがたんけんちず」を作りました。巻き紙に海岸の観察コースでみられる植物、漂着物、特徴的な岩や歌碑などをスケッチとで描いたもので、観察の途中で感じたこと、発見した時の気持ちが伝わる作品でした。

板東花恋さんは「あさがおのいっしょう」を記録しました。咲いた花の形、色、特徴だけでなく、一つのつるに花はいくつ咲くか。咲いている期間や時間。成長や花のつぼみから開花、落花後の種ができるまでの詳しい観察記録でした。

吉田柊輝君は「ぼくが見つけた草や花ずかん」で、家のまわりの草や花について、写真と押し花標本にそれぞれの特徴や名前の由来、畑の栄養になるもの、お灸や薬になるものかなども書き添えたものでした。

谷岡幸和さんの作品は「カエルを見つけたよ!!」。カエルを掴まえた場所のようすや全身や部分の特徴をスケッチしてエゾアカガエルと確認。周りの色を変えた時の体表の色が変わることも実験も確かめました。

菅原健太郎君は「ぼくの 西岡公園トンボ図鑑」を作成しました。トンボの種類が日本一という西岡公園で採集したトンボ、16種類の記録で、それぞれの写真と、種類を特定したその特徴や他の種類のトンボとの違いを図や文で分かり易く書き込んでありました。

中村一雄君は「函館で見られるヒルガオ植物について～そして、北日吉小学校のヒルガオ植物～」。日本でみられる4種類のヒルガオについて、函館にあることを確認し地図を作りました。北海道には「ない」として図鑑に記載のないコヒルガオも函館にあること、北日吉小学校にはヒルガオがあることが確認できました。



金賞 土屋 凜さん 「トンボの観察パート3」



銀賞 岸本隆之介君 「カタバミとコニシキソウの野望」



銀賞 福井春太郎君 「ありのかんさつ」